DRD-333SYS-L 構成

メインスピーカー左

メインスピーカー右

¥21,000 一組

¥83,000（¥71,000　コントローラ無）

小形サウンドコントローラー（不使用可）

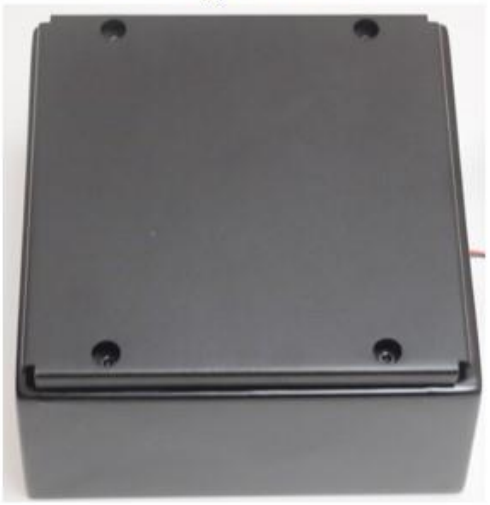
¥12,000

システムインターフェース　¥8,000

メインアンプ　¥24,000

ウーファー

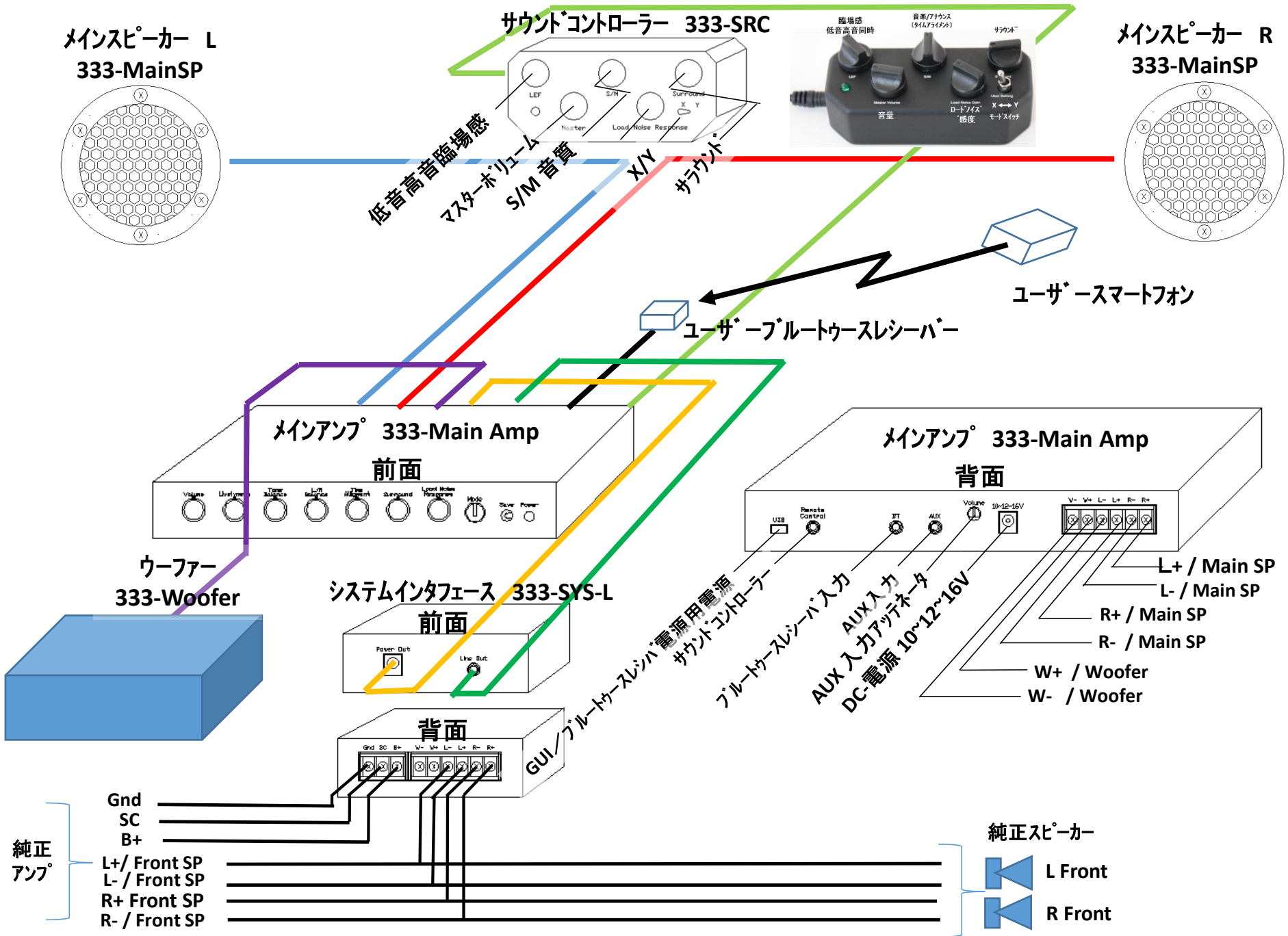
¥18,000



接続コード一式付属

価格は税送抜き　（　）はサウンドコントローラー除く価格

純正共用ﾓﾃﾞﾙ　DRD-333SYS　構成と接続 （ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ不使用可）



DRD-333SYS-L　接続ｺｰﾄﾞ一覧

フロント接続ｺｰﾄﾞ

Gnd，Acc，B+　接続ｺｰﾄﾞ

オーﾃﾞｨｵ 接続ｺｰﾄﾞ

電源 接続ｺｰﾄﾞ

BT 接続ｺｰﾄﾞｾｯﾄ

使い始めの推奨調節方法について

参照ｳｪﾌﾞｻｲﾄ （右QRｺｰﾄﾞ） J-soundscience
問い合せ先 web_supportsoundscience.co.jp 088-644-2222

ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのおすすめ状態

音量 / 低音 臨場感 / 高音 臨場感 / 左右 ﾊﾞﾗﾝｽ / 音楽/ｱﾅｳﾝｽ (ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ) / ｻﾗｳﾝﾄﾞ / ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ 感度 / ﾓｰﾄﾞ 選択 / ﾓｰﾄﾞ 制御

小形ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ

ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗが接続されると、
ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗの臨場感調節は、
ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの低音と高音の両方を制御します。
低音と高音のﾊﾞﾗﾝｽは
ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側の低音と高音で設定します。
左右の音量ﾊﾞﾗﾝｽはﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側が制御します。

ﾍﾟｰｼﾞ案内

ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ推奨ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ （青色は、ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ接続時には、制御がﾒｲﾝｱﾝﾌﾟからｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗに移行）

音量（白）	低音（赤）	高音（青）	L/Rﾊﾞﾗﾝｽ（白）	S/M 音質 （＊ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ）（赤）	ｻﾗｳﾝﾄﾞ（青）	ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ感度（赤）	ﾓｰﾄﾞ選択	ﾓｰﾄﾞ制御
10時	最大	12時	12時	12時（ｽﾋﾟｰﾁ／音楽 自動音質制御） （7時：手動音楽音質），（5時：手動ｱﾅｳﾝｽ音質） ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ：ﾓｰﾄﾞ選択を 9時 とし、ﾓｰﾄﾞ制御 Y（右）5秒後 にﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ調節ﾓｰﾄﾞとなる。 ﾓｰﾄﾞ制御を X（左）に戻すと、ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄが記憶される。	9時	11時	3時	X側（左）
	ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ接続の場合、低音と高音の最大値となります。							

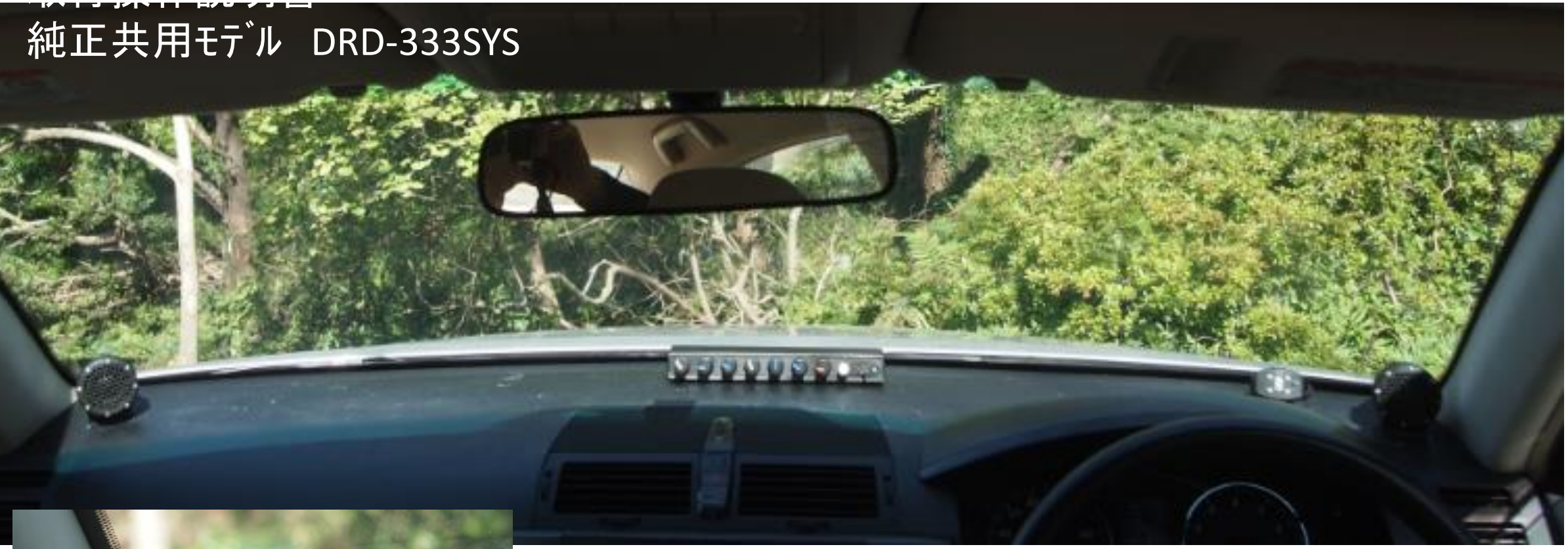
調整手順 （青色は、ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ接続時には、制御がﾒｲﾝｱﾝﾌﾟからｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗに移行）

1. 音場	2-1. LRﾊﾞﾗﾝｽ	ﾓﾉﾗﾙｱﾅｳﾝｽを再生	前方正面から聴こえるよう L/R を調節
	2-2. ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ	ﾓﾉﾗﾙ ｱﾅｳﾝｽを再生	ﾓｰﾄﾞ選択ｽｲｯﾁ：9時 、ﾓｰﾄﾞ制御ｽｲｯﾁ：Y側（右）－＞ 5秒後 に滅灯 －＞ ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ調節ﾓｰﾄﾞ 2-1. 正面方向に音像がｼｬｰﾌﾟに感じるよう、ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ (S/M と共用) を調節 その後、ﾓｰﾄﾞ制御ｾｲｯﾁを X側 に戻す。 ﾓｰﾄﾞ選択ｽｲｯﾁを 3時 に戻す。 －＞ 永久記憶される
2. 音質	3-1. 低音（赤） 3-2. 高音（青）	録音の良い 楽曲を小音量で再生	小音量でも、低中高音のﾊﾞﾗﾝｽ を心地よく感じるよう、低音と高音を調節
3. 音質	ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ接続時	ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗからは、LEF（臨場感）調節で、低音と高音を同時に調節。 低音と高音のﾊﾞﾗﾝｽはﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で調節	
4. ｻﾗｳﾝﾄﾞ（青）	好みのｻﾗｳﾝﾄﾞ感に調節 （楽曲によって効果に違いがあります）（ﾓﾉﾗﾙに対してｻﾗｳﾝﾄﾞ効果はありません）		
5. ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ感度（赤）	停車中に適度なﾘｽﾆﾝｸﾞ音量にｾｯﾄ －＞ 車を走行させ、走行時のﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞに対して、最適な音質音量に調節。 ！運転最優先！ 停止中に効果はありません。 慣れないうちは、ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞに対応した 音量音質 が最適であるかどうかの確信が持てません。 特に気にすることなく、停止中に上げてみたり、下げてみたり、その後の走行で確認します。 数回の調節で最適になります。		
6. ﾓｰﾄﾞ制御	X側（左）：Dｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの効果（基本音質，微小音量時の音質，ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ対応音量音質，ｱﾅｳﾝｽ検出）がｵﾝ。 Y側（右）はｵﾌ		

16ﾎﾟｼﾞｼｮﾝのﾓｰﾄﾞ選択ｽｲｯﾁの割り当て

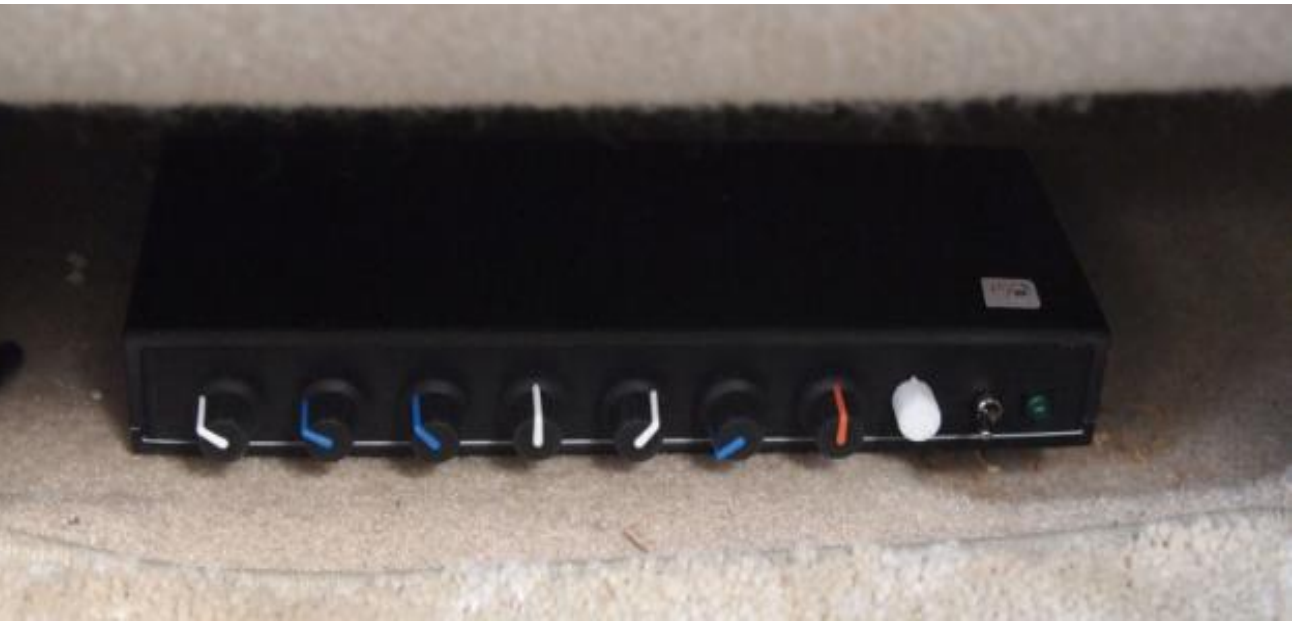
ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	用途	
	ｾｶﾝﾄﾞｵｰﾃﾞｨｵ標準	
	ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ調節ﾓｰﾄﾞ	
	純正音質改善 （ｾﾀﾞﾝ用）	
	純正音質改善 （ﾂｰﾎﾞｯｸｽ用）	
	純正音質改善 （ﾜﾝﾎﾞｯｸｽ用）	
	5秒後に ｳｰﾌｧｰ の位相を	出荷状態に記憶
		反転記憶
その他	ﾕｰｻﾞ要望拡張用	

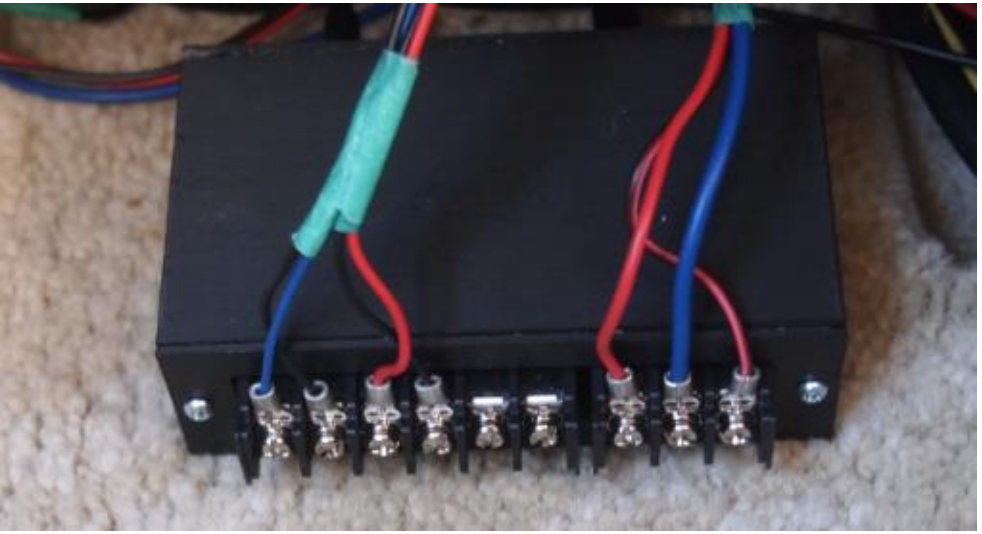
純正共用ﾓﾃﾞﾙ　DRD-333SYS



左右ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶ　と　ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ　設置状態例

裏面に貼る両面接着ﾃｰﾌﾟを二種類用意してあります。
一つは接着力の強いもの　（剥がしにくい）
他方は接着力の弱いもの　（剥がしやすい）

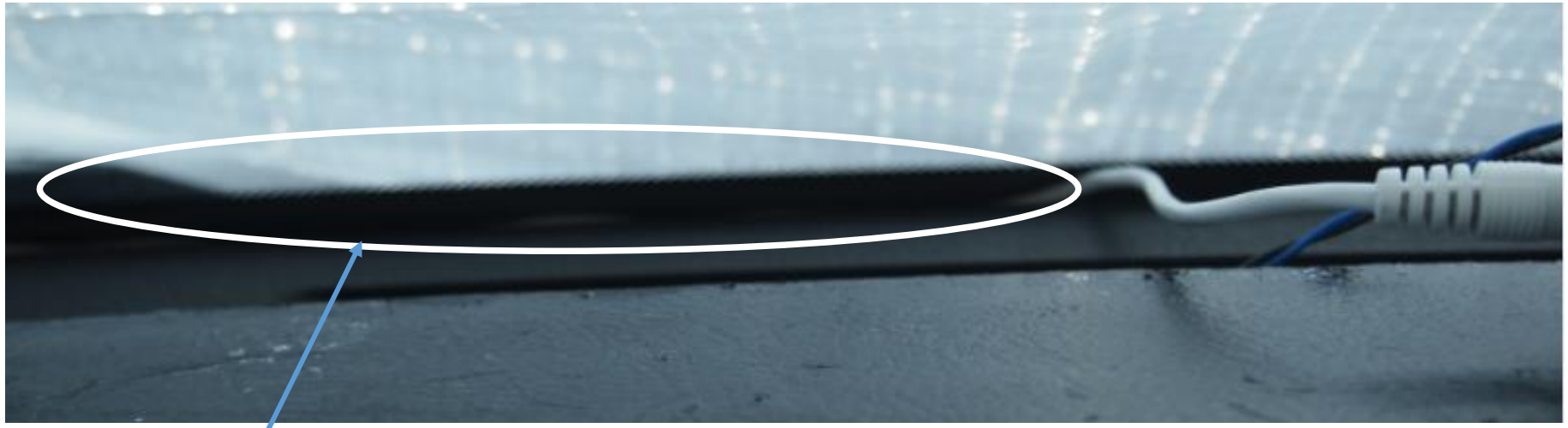




メインアンプとウーファーの設置状態
それぞれ異なる座席下へ設置

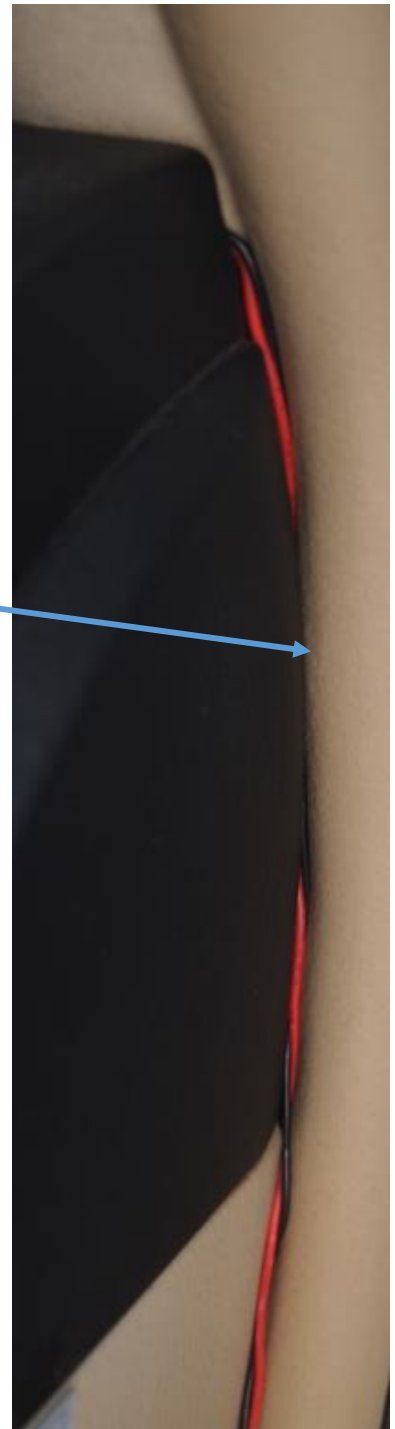
隣り合わせると、
メインアンプの中の振動センサがウーハの振動を拾って、
ロードノイズ対応の音質音量制御に影響を及ぼす

システムインタフェース設置（純正共用モデル DRD-333SYS ）

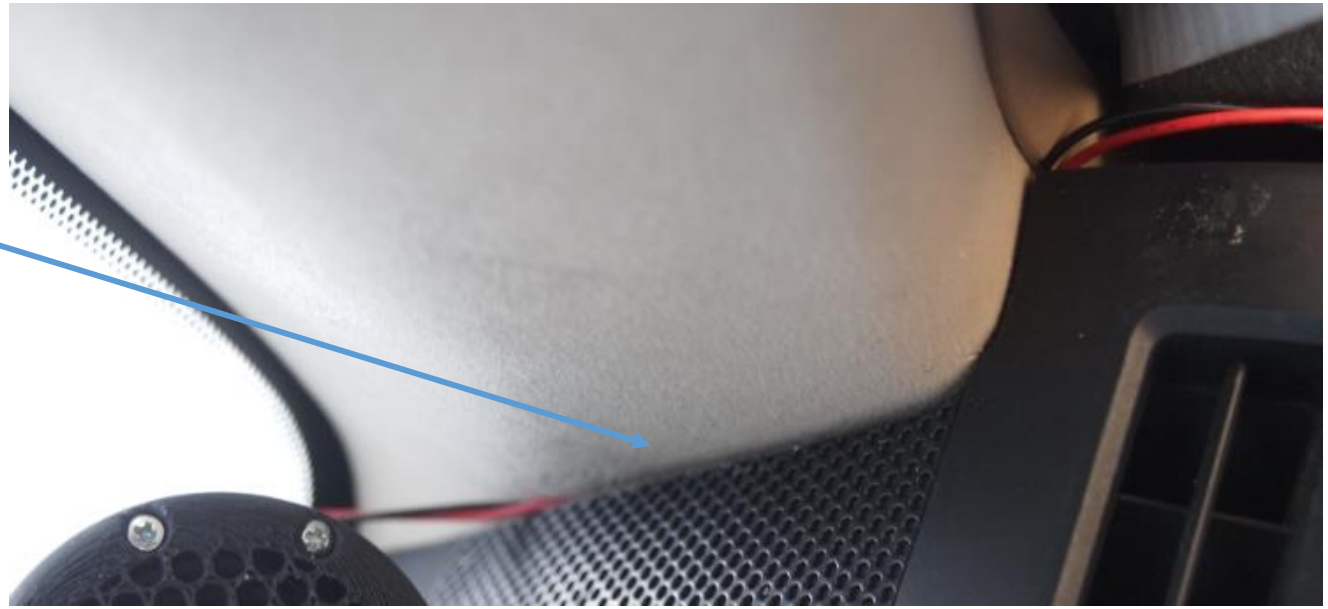


フロントガラスと
ダッシュボードの隙間

コードは写真のように、
車の構造物の隙間に埋め込む
床マットの下に敷きこむ
用具は付属の竹べらが便利で、作業も簡単です。



窓枠カバーとダッシュボードの隙間



ピラーカバーとダッシュボードの隙間

真夏、直射日光下、ﾀﾞｯｼﾎﾞｰﾄﾞはかなり熱い。
ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ、ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰ共に、
この温度に耐えるよう設計してありますが、
温度の上昇は低いにこしたことはありません。
ｻﾝﾄﾞｻｲｴﾝｽでは、いろいろな方法を試してみました。

◆ 効果があって、安価で、簡単な方法は、
ｱﾙﾐ蒸着のｼｰﾄ（百円ｼｮｯﾌﾟ）を写真のように、
左右のﾄﾞｱとﾌﾚｰﾑとの間に挟んで、ﾄﾞｱを閉める、
でした。是非お試しくださいますよう。

◆ ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞの経年変化の保護
真夏の、ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ中の、ダッシュボード と 運転席 の温度上昇を大幅抑制
運転席内部のﾌﾛﾝﾄｶﾞﾗｽ面にｱﾙﾐ蒸着ｼｰﾄを設けるよりも効果大

◆ ｱﾙﾐ蒸着ｼｰﾄは端面から破れやすいので、
全周囲をｾﾛﾌｧﾝﾃｰﾌﾟで補強 すると（ﾃｽﾄの結果ですが）ひと夏は耐えられます。

設置手順と方法　軽トラック専用ﾓﾃﾞﾙ　DRD-333SYS-L

1A	ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶ設置	1-1. 左右それぞれのﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶの後面の接続ｺｰﾄﾞ（青は左、赤は右）のﾌﾟﾗｸﾞ を引き出す 1-2. ｺｰﾄはとりあえずは垂れ流しにしておく 1-3. ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞの左右に エｱﾊﾞｯｸが開く場所を避けて ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰを取り付ける
2A	ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ設置	2-1. ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗのｺｰﾄﾞはとりあえずは垂れ流しにしておく 2-2. ﾀﾞｯｼｭﾎﾞｰﾄﾞの上 または 運転席から操作しやすい場所 にｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰ を取り付ける
3A	そのほかのﾕﾆｯﾄの設置場所の決定	3-1. ﾒｲﾝｱﾝﾌ： 座席の下で、ｳｰﾌｧｰとは別の座席の下（ｳｰﾌｧｰが助手席の下ならﾒｲﾝｱﾝﾌﾟは運転席の下） 3-2. ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ： ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの側近 3-3. ｳｰﾌｧｰ： 座席の下で、ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟとは別の座席の下（ﾒｲﾝが助手席の下ならｳｰﾊﾟは運転席の下）
4A	ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｺｰﾄﾞの仕舞い込みと接続	4-1. 左右それぞれ、ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ向けﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙに向けて接続ｺｰﾄﾞを延ばす 4-2. 配線経路で、ｺｰﾄﾞが見えないように、{車の構造物と構造物の隙間にｺｰﾄﾞを埋め込む} {ﾏｯﾄの下に仕舞い込む} 配線経路で、ｺｰﾄﾞが足元や手元にはみ出ることがないよう、配線 4-3. 配線の仕舞い込みが終われば、ﾒｲﾝｽﾋﾟｰｶｰ接続線のﾀｰﾐﾅﾙ側をﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙに接続 極性に注意 { Lp（青：左ﾒｲﾝ＋），Ln（黒：左ﾒｲﾝｰ）}，{ Rp（赤：右ﾒｲﾝ＋），Rn（黒：左ﾒｲﾝｰ}
5A	ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾙｺｰﾄﾞの仕舞い込みと ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗへの接続	5-1. ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰからﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのRCｼﾞｬｯｸに向けて接続線を延ばす 5-2. 配線経路で、ｺｰﾄﾞが見えないように、{車の構造物と構造物の隙間にｺｰﾄﾞを埋め込む} {ﾏｯﾄの下に仕舞い込む} 配線経路で、ｺｰﾄﾞが足元や手元にはみ出ることがないよう、配線 5-3. 配線の仕舞い込みが終われば、接続線のﾌﾟﾗｸﾞをﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのｼﾞｬｯｸ RC に差し込む
6A	ｳｰﾌｧｰｺの設置と ｺｰﾄﾞの仕舞い込みと ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟへの接続	6-1. ｳｰﾌｧｰの底面を上向きに設置 6-2. 接続線をﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのｳｰﾌｧｰ接続ﾀｰﾐﾅﾙに向けて延ばす 6-3. 接続線を配線経路で、ｺｰﾄﾞが見えないように{ﾏｯﾄの下に仕舞い込む} 6-4. 接続線の端子を、ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙにねじ止め 極性に注意： { Wp（黄：ｳｰﾌｧｰ ＋，Wn 黒：ｳｰﾌｧｰ －}

7A		
8A		
9A	ｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽの設置と ｺｰﾄﾞの仕舞い込みとﾒｲﾝｱﾝﾌﾟへの接続	9-1. ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの純正ｼｽﾃﾑとの配線は、 必ずｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ側のﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙへの接続を先に済ませる。 矢型端子をﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙで止める際、ﾈｼﾞが緩まないよう、しっかりと締め付ける。 ﾈｼﾞの締め付け強さとｺｰﾄﾞの色はﾀﾞﾌﾞﾙﾁｪｯｸ ｺｰﾄﾞのねじ止め後、ﾈｼﾞﾀｰﾐﾅﾙにｶﾊﾞｰを装着 （車の構造物との接触によるﾊﾞｯﾃﾘｰｼｮｰﾄを避ける） 9-2. ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの｛FL+（青），FL-（黒），FR+（赤），Fr-（黒）｝から 純正ｼｽﾃﾑのｽﾋﾟｰｶ接続線の｛FL+，FL-，FR+，Fr-｝へ接続 9-3. ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｰｪｰｽの｛Gnd（黒），Acc（青）｝から 純正ｼｽﾃﾑの電源接続線の｛Gnd，Acc｝へ接続 ｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの｛B+｝から 正ｼｽﾃﾑの電源接続線の｛B+｝へ接続 注意： この際（B+）への接続はこの作業の最後（B+ を先に接続すると、 ﾊﾞｯﾃﾘｰをｼｮｰﾄさせる可能性がある） 9-4. ｽﾋﾟｰｶｰｺｰﾄﾞと電源ｺｰﾄﾞの接続が終われば、配線経路に電源ｺｰﾄﾞがが目立たないよう、仕舞い込む。 9-5. 電源ｺｰﾄﾞの両端のDCﾌﾟﾗｸﾞをｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽとﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのDCｼﾞｬｯｸに差し込む 9-6. ｵｰﾃﾞｨｵｺｰﾄﾞの両端ﾌﾟﾗｸﾞをｼｽﾃﾑｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの LineOut と ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの AUXInput に接続 9-7. 電源ｺｰﾄﾞとｵｰﾃﾞｨｵｺｰﾄﾞが目立たないよう、仕舞い込む。
10A	電源をﾒｲﾝｱﾝﾌﾟに接続	10-1. 両端DC電源ﾌﾟﾗｸﾞ付きｺｰﾄﾞでﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側の電源入力とｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽ側の電源出力に差し込む
11A	ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟとｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽの仕舞い込み	11-1. 全て配線を接続したﾒｲﾝｱﾝﾌﾟとｼｽﾃﾑｲﾝﾀﾌｪｰｽを座席下へ仕舞い込む

1B	エンジンを起動する前の確認	1B-1. ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰｺｰﾄﾞをﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのRCｼﾞｬｯｸへ接続 （BTまたはAUXｼﾞｬｯｸへ接続していないことを確認） 1B-2. ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟのモード切替ｽｲｯﾁが 3時 （右向き水平方向） 1B-3. ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟと小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗのｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁが左側
2B	エンジンを起動して電源系統の確認	2B-1. ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗの緑ランプが数秒間点滅の後、連続点灯 （点灯しない場合はﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの緑ﾗﾝﾌﾟの点灯を確認 ーー＞ 点灯していればｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗｰとﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの接続を再確認） （ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟの緑ﾗﾝﾌﾟが点灯していない場合 ーー＞ 電源ｺｰﾄﾞの接続を確認） 2B-2. ｽﾏｰﾄﾌｫﾝの場合、ﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽﾚｼｰﾊﾞとの間でﾍﾟｱﾘﾝｸﾞを取る （ﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽﾚｼｰﾊﾞのﾗﾝﾌﾟが点滅していなければ ーー＞ USBｺｰﾄﾞの接続を確認） （ﾍﾟｱﾘﾝｸﾞが取れなければﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽﾚｼｰﾊﾞの説明書によるﾍﾟｱﾘﾝｸﾞ手順を確認）
3B		
4B		
5B	純正ｼｽﾃﾑの再生音の ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄでの再生を確認	5B-1 純正側の再生音を微小音量（最大ﾒﾓﾘの5分の１程度）とし、ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄから再生されることを確認
6B	操作ﾂﾏﾐの機能確認	6B-1. 各種ﾎﾞﾘｭｰﾑとｽｲｯﾁの状態の確認 （以下、時刻表記は時計の短針の位置に相当） Master Volume： 音量調節， Bass Tone： 低音調節 （ 推奨 10時～11時 ） ＊ Bass Tone： 低音調節 （ 推奨 10時～11時 ） ＊ Treble tone： 高音調節 （ 推奨 10時～11時 ） ＊＊ L/R Balance： ｱﾅｳﾝｽ と 音楽 の音質調整の自動と手動の兼ね合い （ 中央は自動，左ほど強制音楽，右ほど強制ｱﾅｳﾝｽ ） （ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄの設定と共用です） Surround： 音場の左右の広がり感の調節 （通常 9時～10時 ）（ﾓﾉﾗﾙの楽曲には効果はありません ） Load Noise Response： ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ対応音量音質の調節（ 推奨 11時 ）（ 車体、設置条件，好み によって満足な状態にｾｯﾄ ） （注意： 運転に支障のない範囲で行ってください。特に、慣れていない間はﾊﾟｰｷﾝｸﾞ中に操作 ＊＊＊ Mode： 各種設定のための１６通り の切り替えｽｲｯﾁ（通常はﾎﾟｼﾞｼｮﾝ3時の位置）， ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁ： X側（左） ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄ： ﾓﾉﾗﾙ信号（ﾗｼﾞｵ放送）を再生、ﾎﾟｼﾞｼｮﾝを9時、ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁをY 側（右側）とし、5秒経過後、 S/M のﾂﾏﾐで音の方向調節、ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁをX側（左）に戻す ＊ ： 小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗの LEF は（ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟで設定の Bass，Treble の比率で） 低音高音同時可変 となる ＊＊ ： L/Rﾊﾞﾗﾝｽは常時ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定 小形ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ側からの制御はできない ＊＊＊： Mode は ﾛﾀﾘｽｲｯﾁは常時ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定、小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ側からの制御はできない

7B	純正ｼｽﾃﾑの再生音を 適正な音量で再生する設定	7B-1. 聞き慣れた楽曲 や 低中高音でﾊﾞﾗﾝｽの良い楽曲を再生 －－＞ 適正音量音質、好みの状態に調節 7B-2. 左右の音量ﾊﾞﾗﾝｽの調節： ﾆｭｰｽを再生し、音が正面から聞こえるようL/R Balanceを調節（右ﾊﾝﾄﾞﾙの場合、11時前後） 7B-3. ﾀｲﾑｱﾗｲﾒﾝﾄの調節：ﾆｭｰｽを再生し、MODE 0，ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁ 右Y側 、5秒後 S/M Tone を回し、音が正面から聞こえるよう調節， ｽﾅｯﾌﾟｽｲｯﾁを左X側に戻す 7B-4. ｻﾗｳﾝﾄﾞの調節： 好みの状態に
9b	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ中での音質確認	8B-1. ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄのﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑを10時とする 8B-2. ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの再生音量が適正音量となるよう、純正ｼｽﾃﾑの再生音量を選択 8B-3. その後の再生音量はﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄのﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑで調節 （ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの再生音が｛歪む．音割れ｝－－＞ 純正側音量を下げる） （ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｻｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの再生音に｛ﾁﾘﾁﾘ，ｻﾞｻﾞ ｝とﾉｲｽﾞが入る －－＞ 純正側音量を上げる） 8B-4. 純正側で再生したい場合はｼﾞｭﾆｱｻﾗｳﾝﾄﾞｼｬｷｯﾄの音量を絞り、純正側の音量を上げる。
8B	走行中での音量音質確認	9B-1. 停止中、常々聞いている音量にｾｯﾄ 9B-2. 走行中、最も右のﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞ対応音量音質調整ﾂﾏﾐで、 走行速度や路面状態によって大きく変化するﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞの中で、最適音量音質に調節（その後は固定） 一度設定しても、慣れの度合いによって、さらに自然にしたい、と感じます。その時は再調節します。 何度か試みて最適のﾎﾟｼﾞｼｮﾝを選びます。 （ 注意： 慣れない間、運転中の音量が気になりますが、運転を最優先にしてください ） （ 注意： 楽曲によって、放送は電波の状態によって、音量が変わりまます。 この場合はﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑで調節します）
10B	ｱﾅｳﾝｽと音楽の音質確認	10B-1. S/M Tone のﾂﾏﾐを12時とし、楽曲とｱﾅｳﾝｽとの再生音質を比べます。 12時の位置はｱﾅｳﾝｽと音楽の自動判定による自動音質制御です。 音質を自動ではなく手動選択にしたい場合、 12時から左に廻すほど手動での音楽向きの音質になります。 中間は固定の｛音楽音質またはｱﾅｳﾝｽ音質｝と自動とを案分します。12時に近いほど自動調節に任せます。 （自動の場合、映画や天気予報など、BGMが入っていると、音楽音質傾向になります。）
11C	各操作ﾂﾏﾐの 有効的な使い方	目を向けなくても、指先の感覚で場所と角度を調節できるように。 11C-1. ﾏｽﾀｰ 必要にお応じて都度操作。 11C-2. Bass Tone，Treble Tone 好みの低音感と高音感にバランスよく調節 （ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定，小型ｻｳﾝﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾗ側からは双方同時 ） 11C-3. LEF 楽曲の臨場感を調節 （ﾒｲﾝｱﾝﾌﾟ側で設定された低音と高音のﾊﾞﾗﾝｽのままそのﾐｯｸｽされた臨場感の調節 ） 11C-4. Surround 好みによって、楽曲によって、左右の広がり刊を調節。録音状態によっても効果が異なります。 ﾓﾉﾗﾙ放送の場合は機能しません。 11C-5. Load Nose Response 走行騒音中での快適なﾘｽﾆﾝｸﾞを提供する機能です。 数回の調整で、最適の状態にｾｯﾄできます。

ご使用に際して

運転中のﾘｽﾆﾝｸﾞで、
　前方から音が聞こえること、
　ﾛｰﾄﾞﾉｲｽﾞに対応して音量音質が最適状態に自動調節されること、
　ｺﾝﾄﾛｰﾗの操作ﾂﾏﾐが多いこと、
　など、これまでのｶｰｵｰﾃﾞｨｵとは音質の感じ方や操作方法が大きく違います。
　数回の運転で慣れますが、
　使い始めはくれぐれもご注意くださいまして、運転に集中くださいますよう。

　いろいろな楽曲でお試しくださいますよう。

何かと、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡くだされば、と存じます。

ｻｳﾝﾄﾞｻｲｴﾝｽ株式会社
郵便番号　770-8041　徳島市上八万町西山436番地
0886-44-2222　　web_support@soundscience.co.jp